

心理学学位プログラム (博士前期課程)

Master's Program in Psychology

授与する学位の名称	修士(心理学) [Master of Arts in Psychology]	
人材養成目的	<p>心理学とは、人間理解の要として、心とは何かを問い、心のはたらきを明らかにする学問領域であり、そのために人間が外界からの情報を取り入れ、理解し、最終的に適切な行動を取るにいたる過程を現象的に、機能的に、また、それを支える脳の機能にまでさかのぼって明らかにすることを目的とする学問領域である。こうした心理学領域全体の知識・方法論・技能・価値観を身に着け、その上で、社会科学諸領域を初めとする隣接諸領域、学際研究として展開可能な複合領域との多様かつ密接な関係性を持ち、その上で人間研究の専門家として社会に貢献できる人材、すなわち、確固たる基礎、幅広い視野と問題意識を持つ心理学領域研究者たる人材を養成する。</p>	
養成する人材像	<p>心理学領域の専門的研究職として確固たる視点を獲得した上で、人間を総体として客観的に理解する能力、心の多様性と普遍性を理解する能力、人間と環境との相互作用を理解する能力を基に、人間に関する専門研究者として社会貢献する能力を持つ人材を養成する。心理学領域の専門研究者となる人材養成に加えて、心理基礎科学サブプログラムでは、心理学領域全体の広い視野を持ちつつ、習得した心理学の方法論や知識・技能によって広く社会の活動に直接的に貢献できる高度専門職業人としての人材を、また心理臨床学サブプログラムでは、総合的・多面的に心理臨床学を創造的に発展させる能力と実践的に応用するための技術を兼ね備え、豊富な臨床実習経験を生かせる高度専門職業人としての人材を養成する。</p>	
修了後の進路	<p>自立した研究者となるための大学院博士後期課程への進学その他、心理基礎科学サブプログラム修了後には、自治体、コンサルティング会社や教育関係民間研究所での心理学専門職、あるいは製造・流通業その他広く民間企業における人間に関わる研究をベースとする心理学専門職など、心理臨床学サブプログラム修了後には、公認心理師、臨床心理士の資格を得た上で、都道府県や市町村の公務員(心理職、一般職)、家庭裁判所(調査官補)、病院や精神科クリニック、その他、心理臨床学の実践が必要とされる職場での心理専門職、等。</p>	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力:高度な知識を社会に役立てる能力	<p>① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか</p>	<p>心理学特別研究、心理学方法論、修士論文作成、学会発表、インターン実習</p>
2. マネジメント能力:広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	<p>① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか</p>	<p>心理学特別研究、各領域専門科目、達成度自己点検</p>
3. コミュニケーション能力:専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	<p>① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか</p>	<p>心理学特別研究、各領域専門科目、心理学インターンシップ、学会発表、達成度自己点検</p>
4. チームワーク力:チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	<p>① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか</p>	<p>心理学特別研究、心理学インターンシップ、TA 経験</p>
5. 国際性:国際社会に貢献する意識	<p>① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか</p>	<p>心理学特別研究における論文指導、修士論文作成(先行研究レビュー並びに研究上の問題検討)に加え、心理学方法論1での英語論文作成に関する授業の受講、心理学先端研究、大学院共通科目(国際性養成科目群)、心理基礎科学英語の履修、国際会議発表、海外研究者との研究交流経験</p>

6. 心理学的問題発見と人間理解力: 心理学の知識と方法論に基づき、心と行動の多様性、人—環境の関りを理解する能力	① 人の心と行動の多様性を心理学の知識・方法論から理解できる(または理解しようとしている)か ② 人と環境の関わりを心理学の知識・方法論から理解できる(または理解しようとしている)か	心理学方法論、修士論文作成、学会発表
7. 心理学的問題解決力: 心理学の知識、方法論、倫理に基づき、心と行動の問題を発見・理解・解決する能力	① 人の心と行動の問題を心理学の知識・方法論に基づいて発見し、理解できる(しようとしている)か ② 人の心と行動の問題を心理学の専門性と高度な倫理観をもって問題解決できる(しようとしている)	心理学特別研究、修士論文作成、学会発表
8. 心理臨床実践力: 心理学の知識・方法論と心理臨床技能に基づき、心理臨床的支援を実践できる能力	人の心と行動問題に対し、心理学の専門性と高度な倫理観をもって心理臨床的支援を実践できるか	心理実践実習、臨床実習における実践力、理解力
9. 心理学的情報発信力: 高い倫理観をもって、心理学の知識・方法・成果を発信し、社会に貢献する能力	① 心理学の知識・方法論・成果を高い倫理観をもって発信することができる(またはしようとしている)か ② 心理学の知識・方法論と高い倫理観をもって社会貢献することができる(またはしようとしている)か	心理学特別研究、心理学インターンシップ、修士論文作成、学会発表、インターンシップ
10. 多領域間コミュニケーション力: 心理学の専門性を発揮して、他領域・他職種の専門家と議論・協働できる能力	① 心理学の専門家として、他領域・他職種と議論・協働ができる(またはしようとしている)か ② 心理学の専門性を活かして、他領域・他職種と議論・協働ができる(またはしようとしている)か	心理学キャリア形成、心理学インターンシップ、修士論文作成、学会発表、インターンシップ

学位論文に係る評価の基準

筑波大学大学院学則に規定された要件を充足した上で、学位論文が下記の評価項目について妥当と認められ、かつ、最終試験で合格と判定されること。

(評価項目)

1. 関連分野の国内外の研究動向及び先行研究の把握に基づいて、心理学分野における当該研究の意義や位置づけが明確に述べられていること。
2. 心理学分野の発展に寄与するオリジナルな研究成果が、修士論文に相応しい量含まれていること。
3. 研究公正についての十分な知識に基づき、研究結果の信頼性が十分に検証されていること。
4. 研究結果に対する考察が妥当であるとともに、結論が客観的な根拠に基づいていること。
5. 研究の背景、目的、方法、結果、考察、結論等が、当該分野の修士論文に相応しい形式にまとめていること

(審査体制)

修士論文の審査等を実施するために設置する学位論文審査委員会は、主査1名と2名以上の副査で構成する。副査は研究群の構成員2名以上を含むものとし、必要がある場合は学位プログラム教育会議が認めた研究群外の適任者を加えることができる。

カリキュラム・ポリシー

心理学学位プログラムでは、人間理解の要として心とは何かを問い、心のはたらきを明らかにすることができるよう、必要な心理学領域全体の知識・方法論・技能・価値観を身につけ、同時に隣接諸領域・学際研究として展開可能な複合領域との多様かつ密接な関係性を持ちつつ、人間科学の専門家として社会に貢献できる問題解決能力を育成していく。

教育課程の編成方針

心理学学位プログラムでは、心理基礎科学サブプログラム、心理臨床学サブプログラムをおいた上で、学位プログラム基礎科目、サブプログラム共通科目、専門科目を配置し、また学位取得論文作成のための研究を自立的に行なうことができるカリキュラムを提供する。

学位プログラム基礎科目における「心理学方法論」「心理学先端研究」によって、広く心理学研究について学ぶこと、さらに専門科目での領域ごとの科目(「教育心理学特講」他ならびに心理基礎科学演習)によって、心理学的問題発見と人間理解力を身につける。

専門科目での各研究領域の専門科目(「教育心理学特講」他特講科目、ならびに心理基礎科学演習)ならびに「心理学特別研究」では、心理学的問題解決力についても育成をする。

これらの専門コンピテンシーは知の活用力を身につける基盤となる。

「心理学特別研究」、中でも複数回行なわれる修士論文報告会の実践により、心理学的情報発信力ならびに

	<p>多領域間コミュニケーション能力を身につける。これらは、汎用的知識・能力としての基盤として、知の活用能力、マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力を育成する。</p> <p>心理臨床学サブプログラムは専門科目に加えて、各種実習科目により心理臨床実践力を身につける。特に、公認心理師、臨床心理士等の資格を得るための講義・演習・実習についてもカリキュラムの中に組み入れる。</p> <p>また「心理学インターンシップ」「心理学キャリア形成」などにより、心理学的情報発信力、多領域間コミュニケーション能力を身につける。</p> <p>「心理学方法論」の一部ならびに「心理基礎科学英語」他により、国際性を身につける。</p> <p>これらに加えて、大学院専門共通基盤科目、大学院共通科目を履修することにより、マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、国際性を身につける。</p>
学修の方法・プロセス	<p>学位プログラム基礎科目では、専門基礎を固めると同時に、学位プログラムの集大成ともいえる学位論文作成研究のための指導科目を含む。さらにキャリア形成のための諸科目を設置する。</p> <p>各サブプログラムにおける専門科目は、個別専門領域における、専門知識とその実践の学びの場を提供する。特に心理基礎科学においては強い関係性をもつニューロサイエンス学位プログラムの設置科目についても、心理基礎科学専門科目の一つとして履修を推奨する。また各専門科目での演習科目では具体的な研究を取り上げた実践的な研究活動を行うことにより、研究実施の基礎能力他を涵養する。</p> <p>心理臨床学サブプログラムでは臨床心理学実践力のための実習科目も設置する。心理臨床学サブプログラムでは修了とともに公認心理師ならびに臨床心理士の受験資格が付与される。</p> <p>両サブプログラムとも、こうした科目履修に加え、学位取得論文研究の実施準備として、1年次に3回の「修士論文指導会への参加」等によって、研究実施能力ならびにコミュニケーション力を修得し、標準履修年次2年次での学位論文作成を推進する。学位論文作成研究については、指導教員と副指導教員がチームを組んで複数教員が研究を指導する体制により、幅広い視点からの研究推進能力を獲得する。</p>
学修成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> 各授業科目では、担当教員による厳正な教育評価を行なう。 1年次末に、研究経過報告の提出を求め、1年間の研究活動について評価を行なう。 2年次には5月の修士論文構想発表会(第1次指導会)、10月の修士論文中間発表会(第2次指導会)を実施して、中間的な評価を行なう。 最終評価は、1月に提出された学位論文について3名による査読を行い、併せて修士論文最終発表会での口頭試問も行い、心理学研究としての総合的評価、ならびに学位取得に必要な諸能力の獲得について評価を行なう。
アドミッション・ポリシー	
求める人材	<p>心理学学位プログラム(博士前期課程)では、心理学の方法論や知識・技能を意欲的に習得し、博士後期課程に進みさらに心理学の研究を目指す研究者養成を志す人材に加え、公認心理師・臨床心理士、感性工学・人間工学・認知工学に関わる専門家、社会調査および市場調査など社会心理的状況を分析する専門家、人事管理・人事評価に関わる専門家、心理学の専門性を持った公務員等、心理学の専門的研究能力をベースとする高度専門職を目指す人材を募集する。人間理解のための心理学を深く志す者を対象とし、自律的に学んでいく人材を求め、心理学に関係した学部出身者ばかりでなく、これから心理学を専門的に学び、追究しようとする人も入学可能である。</p>
入学者選抜方針	<p>入学試験は専門試験、専門外国語試験(英語)、口述試験により行う。心理学の基礎知識、ならびに基礎的なスキルを一定程度、獲得しており、文献研究・実証研究を行っていくための基礎能力を備えていることが必要とされる。</p>